

iシェアーズ
月次ETF*資金流入レポート



渡邊 雅史
ブラックロック・ジャパン株式会社
iシェアーズ事業部
ストラテジスト

ETFは世界中で約5000本が上場され、機関投資家・個人投資家の双方に活用されており、その規模は2.5兆ドル（約250兆円）を超えています。

ETFは株式市場で株式のように取引される一方で、上場「投資信託」であり、投資信託としての資金の出入りが日々発生**しています。世界中で様々な投資家が利用しているETFの資金流入は、世界の投資家の動向を探る上でも有用な情報になると考えられます。

当レポートでは、世界のETFの資金流入の状況をまとめ、それらから見えてくる世界の投資家動向についてご紹介していきます。

*ETF(Exchange Traded Fund)のほか、ETN(Exchange Traded Note)、ETC(Exchange Traded Commodity)、ETI(Exchange Traded Instrument)等の上場金融商品を含みます。

**ETF独自の「設定／交換」と呼ばれる現物バスケットと受益権の受け渡しによりETFへの資金流入が発生します。（すべてのETFが現物での設定／交換を行うわけではありません）

2015年1月のETF資金流入 ～ ECBの追加緩和から欧州株などへ流入～

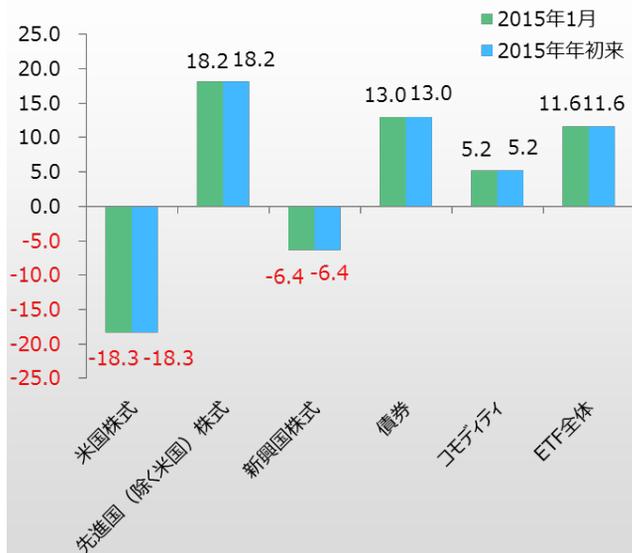
2015年1月の世界のETFへの資金流入は、116億ドル（約1.4兆円）の流入となりました。

米国株式ETFからの流出が-183億ドルと非常に目立った一方で、それをほぼ補う形で米国以外の先進国の株式ETFへほぼ同額の流入が見られました。特にECBの追加緩和によるユーロ安・株高の流れから、特に為替ヘッジを行った欧州株ETFへの資金流入が注目を集めました。一方で新興国株式のETFからは流出が継続しており、例外的な資金流入はインドのような原油安の恩恵と政府による改革が評価されている一部の国に限定されました。

また、債券のETFについても、ECBの追加緩和などから、国債の利回りが低下するなかで、社債等のETFへの流入が先月と比べて加速しました。

原油価格の底打ち期待からコモディティのETF（主に原油へのエクスポージャーを持つもの）への流入が目立つと共に、金利低下や証券市場のボラティリティの高まりから金のETFへの流入も見られました。

【世界のETFの資金流入（十億ドル）】



出所：ETP Landscape Jan 2015, BlackRock

当資料は情報提供を目的として作成されたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的とするものではありません。当資料は当社が信頼できると判断した資料・データ等により作成しましたが、その正確性および完全性について保証するものではありません。また、当資料中の各種情報は過去のものであり、今後の運用成果を保証するものではなく、当資料を利用したことによって生じた損失等について、弊社はその責任を負うものではありません。さらに、本資料に記載された市況や見通しは作成日現在の当社の見解であり、今後の経済動向や市場環境の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。

ETFから見る世界の投資家動向 ～ハイールド債券ETFへの流入の加速～

【HYG(iシェアーズ iBoxx 米ドル建てハイールド社債ETF)の市場価格と資金流入】



原油価格の下落から、エネルギーセクター関連銘柄のクレジットリスクが懸念され、昨年末にかけて下落が続いていたハイールド債券ETFですが、年明け以降は資金流入と共に価格が回復しています。

これには大きく二つの要因があると考えられます。一つは原油価格が反発したことで、上記の懸念が和らいだことです。そして、もう一つは、ECBの追加緩和によって、欧州の債券の利回りが押し下げられたことで、利回りを求める投資家（インカム投資家）の物色対象が減ってしまったことが考えられます。いくつかの欧州の国債の利回りはマイナスとなり、ある程度の利回りを確保したい投資家は再び高利回りの債券に手を伸ばしたと考えられます。利回りを追求するために、金利リスク取って利回りを上げようとする投資家による米国～超長期債券のETFへの流入が見られたのと同様に、クレジットリスクを取って利回りを上げようとする投資家により、ハイールド債券もその対象となったと思われます。いずれにせよ、低金利の拡大・長期化はインカム投資家が満足できる投資対象の選択範囲を次第にせばめていると考えられます。

ETFの主な投資リスクについて

ETFは投資元本および投資元本からの収益の確保が保証されているものではありません。連動を目標とする指数、組入れ有価証券の価格変動、金利及び外国為替の変動等の要因によりETFの価格は変動することから、投資者は損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

ETFの価格が変動する要因や変動の大きさは、各商品及び各商品が連動を目標とする指数等により異なります。優先株は金利上昇等により価値が減少する場合があります。また配当の支払いは保証されていません。満期到来、償還、繰上げ償還、転換などによってファンドの利回りの低下を招く場合があります。特定の地域や分野に特化した投資では、一般に変動が大きくなります。不動産投資信託（REIT）への投資は経済状況の変化や信用リスク、金利変動の影響を受けます。

手数料、費用等について

【売買時の手数料】 当ETFを売買する際の手数料は取扱い金融商品取引業者（証券会社）等によって定められます。詳しくは取扱会社までお問い合わせください。【保有時の費用】 当ETFの保有期間中は運用管理費用等を間接的にご負担いただきます。保有時の費用の率（総経費率）は個別のETF/JDR毎によって異なり、また運用状況や保有期間等に応じて異なることからその上限額を示すことはできません。詳細は取扱い金融商品取引業者（証券会社）にてご確認ください。またiシェアーズのウェブサイト（<http://www.blackrock.com/jp/ishares>）にて当ETFに関する情報を開示しております。

iShares®
by BLACKROCK®

ブラックロック・ジャパン株式会社

iシェアーズ事業部 TEL 03-6703-4110（部代表） www.blackrock.com/jp/ishares
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第375号
加入協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 投資信託協会、日本証券業協会

当資料は情報提供を目的として作成されたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的とするものではありません。当資料は当社が信頼できると判断した資料・データ等により作成しましたが、その正確性および完全性について保証するものではありません。また、当資料中の各種情報は過去のものであり、今後の運用成果を保証するものではなく、当資料を利用したことによって生じた損失等について、弊社はその責任を負うものではありません。さらに、本資料に記載された市況や見通しは作成日現在の当社の見解であり、今後の経済動向や市場環境の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。